

夢を信じた就職活動

電気電子工学科 46 期（平成 25 年 3 月卒） 松元 洋人

私は平成 25 年に鹿児島高専の電気電子工学科を卒業し、現在は株式会社ネオテックという放送制作技術会社で、主にスポーツ中継を担当するテレビカメラマンとして働いています。そんな自分が今、鹿児島高専を経て、就職して感じた事をここに書きたいと思います。

高専時代の私はサッカー部に所属して、学力は万年、下の中の順位を彷徨っているような学生でした。学生生活の中心といえば、勿論サッカーでした。そんな自分にも、年月を重ねて、いよいよ人生の分岐点というべき、「就活」の時期がやってきました。学生生活でサッカーしかしてこなかった自分が、いきなり「社会へ出る為に就活をしろ」と言われても、何をしたいのか全く分かりませんでした。「一体、自分は、どんな選択をすればいいのだろう」と悩みました。友達の考え方もいろいろあり、会社のネームバリューや福利厚生、勤務地、お給料、仕事内容、やりがい・・・何を重視して就活するかは人それぞれでした。そんな悩む日々のある日の K 先生の授業で、「高専の卒業生で、サッカーが好きでどうしても海外サッカーを撮るカメラマンになって言って卒業していった人もいるんだよ。まー、今やれているかは分からないけど、好きな事をするのも一つの生き方だよ」という話を聞いた私は、これだ!! と思いました。思い高ぶった私は、授業後 K 先生のところに駆け込み、就活の相談をしました。

そうして私の中で、人生の選択で重要なキーワードになったのが「夢」でした。小学校から始めたサッカーというスポーツ競技を通して、小学校、中学校、高専と沢山の出来事と人に出会えました。その経験から、人としての成長と沢山の仲間を頂きました。そしてこれからもサッカーに関わっていききたいという気持ちが強くなり、「サッカー中継を担当するテレビカメラマンになる」という一心で就活を進めました。そして、今現在私はスポーツ中継を担当するテレビカメラマンなれました。

鹿児島高専に入学して、本当に良かったと心から思っています。その理由は、「親友」が沢山出来たからです。今までの私の中の「親友」という言葉の意味は、人生で 1、2 人出来る仲が良

い友達のことを指す言葉でした。しかし5年間という長いようで短い、短いようで長い年月を友達と過ごすことで、私の「親友」は沢山増えました。部活で切磋琢磨したり、高専祭でバカやったり、寮生活で嫌ってというくらい寝食一緒にいたり、勉強を徹夜で協力して乗り切ったり、しょうもないことでケンカしたり、本当にアホみたいなことで盛り上がったり・・・挙げればキリがないですが。その密度が濃い時間を過ごせたからこそ、親友と呼べる仲間が沢山出来ました。その仲間達とは、卒業して上京してからも、あいかわらず遊んだり、「夢」を語ったり、落ち込んでいる時に助けられたりします。私にとって、本当に貴重な存在です。

在校生にメッセージということで、私が伝えたい事を2つ書きたいと思います。

1つは、鹿児島高専に在学中の間に沢山の自分にとっての「親友」を作ってください。そして、その仲間と学生生活を楽しく謳歌してください。そうすることで、その時間と仲間が卒業して、今後の人生の宝物にきつとなります。

2つ目は、「夢」も持つことです。私は、高専で改めて「夢」を持つことの大切さを学びました。今、私の夢は「カメラマンとして、サッカーW杯に行き、自分にしか撮れない映像を世の中に残す」ことです。学生の時、私がカメラマンになると言った時、周りで無理だと言う意見もありました。しかし、私はなれました。意志あるところに道が出来ます。自分を！夢を！信じて下さい。夢の持つパワーは、生きる上で何事にも負けない原動力になります。私自身も、それが困難を乗り越える支えになった事が多々あります。

それでは、在校生の皆様、「親友」と「夢」と共に最高の高専生活を堪能して下さい！！